解放

大 澤 星 一

奨励者紹介〔おおさわ・せいいち〕
日本キリスト教団西大和教会牧師

その後、ユダヤ人の祭りがあったので、イエスはエルサレムに上られた。エルサレムには羊の門の傍らに、ヘブライ語で「ベトザタ」と呼ばれる池があり、そこには五つの回廊があった。この回廊には、病気の人、目の見えない人、足の不自由な人、体の麻痺した人などが、大勢横たわっていた。さて、そこに三十八年も病気で苦しんでいる人がいた。イエスは、その人が横たわっているのを見、また、もう長い間病気であるのを知って、「良くなりたいか」と言われた。病人は答えた。「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです。」イエスは言われた。「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。」すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きだした。

その日は安息日であった。

（ヨハネによる福音書 5章1―9節）

私たちは生きていくために、さまざまな前提というものをもって生きている。思想だったり、主義だったり、あるいは信仰などもそうと言えるかもしれない。しかし大事なのは、そうした前提としているものが本当に正しいのかどうか、あるいはふさわしいのかどうかをいつもチェックすることだと思う。イエスもいつも自分を問うことをしていた。キリスト教の一つの受け止め方として自己批判する宗教だと言えるだろう。

今日与えられた聖書の箇所は、イエスがエルサレムのベトザタの池で38年間病気で苦しんでいる人を癒した物語である。

ベトザタという言葉の意味は、もともとの言葉の意味を知ることは現在は難しいが、ベトが家という意味であり、分解すると、「オリーブの家」「あわれみの家」という意味があったようである。ベトザタの池の水が動く時に、一番最初に池に入った者の病気が癒される。そのことを考えると、「あわれみの家」という意味になったのも十分考えられるだろう。ここはたくさんの病気の人たちが集まり、癒しを求めていた「あわれみの家」という池だった。

しかし、実際はどうだったのだろうか。実はこの箇所にはいろいろなイメージと実際のギャップや差が描かれている。「あわれみの家」とは言われているが、7節には「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです」とあり、そこには病気を癒してほしい人たちがひしめき、今か今かと水が動くのを待ち、他者を押しのけてでも入ろうとする混乱がある。あるいは入れなかったという嘆きや悲しみなどが満ちあふれていた。「あわれみ」の場が「混乱」の場になっていたということである。

あるいは、1節には、このイエスの癒しがあった時期として「祭り」の時であったことも記されている。エルサレムはたくさんの人たちの喜びと活気に満ちた祭りの時であったが、その一方で、このベトザタの池の

周辺は静かに、水が動くのをじっと待つ人であふれていた。このような対比が描かれている。

そこで、イエスは38年間病気で苦しんでいた人を癒す奇跡を起こされた。

病気を癒すということも大きな出来事だったが、それ以上の大事な意味もここには込められている。それはイエスの癒しがあるべき姿に帰るという意味をもっているということであり、またすべての捕らわれからの解放を意味しているということだ。

具体的な癒しの出来事は、イエスと病気で苦しんでいた人との会話で起きている。しかし、よく読んでみるとこの会話はちぐはぐな対話になっていることに気付かされる。イエスはまずこの人に「良くなりたいか」と訊ねた。38年間も病気で苦しんでいるのだから、良くなりたいのは当然だろう。なぜこのような問いをこの人にしたか考えてみる必要がある。しかし今日改めて取り上げるのは、この「良くなりたいか」というイエスの問いに対して、この人は「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです」という答えだ。「良くなりたいか」と訊かれれば「はい」か「いいえ」のはずだ。しかし、この人は素直に「はい」と答えられなかった。そうではなく、他の人が先に入ってしまう、誰も助けてくれないと、いわば不平不満で答えているのである。38年間病気で苦しみ続けてきたがゆえに、素直になれず、病はこの人の心を曲げてしまっている。そしてこの人はそれにも気付くことができないでいる。

そんな状況で、イエスの具体的な癒しの言葉は「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい」だった。「床を担いで」、この言葉にはどんな意味が込められているのだろうか。「床」、それはこの38年間病気で苦しんでいた人の現実だった。彼は動けず一日中この「床」で過ごしていた。ということは別の言い方をすれば、この人にとって「床」は世界であり、すべてであった。そして大事なことは、この人はその「床」に縛られていたということだ。

イエスの「床を担いで歩け」との言葉は、そこから、つまり縛られていた「床」からの解放を意味し、本来あるべき姿にという意味が込められていたと言えるだろう。さらにイエスはその縛られていた床＝課題をも担いで、自由に歩いて行けと宣言されたのである。

イエスの癒しの意味は、あらゆる捕らわれからの解放であり、本来あるべき姿、神と人と正しい関係を結ぶことができる姿に戻るところにあると言えるだろう。

この「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい」との言葉は、私たちにも向けられている。誰が自分は病気ではない、正しいと言い切れるだろうか。誰が捕らわれていないと言い切れるだろうか。

しかし、イエスはそうしたあらゆる捕らわれから私たちを解放し、あるべき姿で歩ませてくださる。そのことを忘れずに自由に歩んでいけたらと思う。

2017年10月18日　今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録